

事務事業名	徘徊高齢者探知システム事業		<input type="checkbox"/> 施設計画上の主要事業	法令根拠			
政策名	総合計画 体系	0:6: 誰もが自立し、社会参加できる福祉環境づくり	所属部門	住民福祉 部	保健福祉 課	福祉 係(グループ)	
施策名		1:5: 高齢者の自立と社会参加の推進	課長名	江口 口子		担当者名	西田 昌樹 (内558)
基本事業名	3:3:2:1: 在宅福祉サービスの充実	予算科目	会計	款	項	目	事業
全庁共通課題	<input type="checkbox"/> 協働のまちづくり <input type="checkbox"/> 男女共同参画 <input type="checkbox"/> 食のまちづくり		環境		次世代		
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度		全体計画の投入量を記入		
	↳ (開始年度 14 年度 ~)		↳ (年度 ~ 年度)				

事業概要 徘徊する恐れのある高齢者等の世帯に対して、探知機を貸与し、徘徊の際には配管探知システムを利用して位置を確定し、保護する。	全体計画	(単位:千円)
	事業費	特定財源
		一般財源
		その他
	人員費	事業費計(A)
		正規職員従事人数
	人件費計(B)	
	トータルコスト(A)+(B)	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と効果
手段(具体的な事務事業のやり方、手順、詳細)

16年度実績
利用希望家族から申請を受理し審査決定をする。結果を通知した後に、利用対象家族に対して利用方法などの説明を行なう。徘徊の際には支援をする。年度当初にシステム提供会社との委託契約の締結を行ない、毎月の委託料を支払う。新規利用・廃止の際には委託業者に連絡調整をする。道の補助事業のため、道に対する補助申請等を行なう。

17年度計画
平成16年度同様である。

対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等
徘徊の恐れのある高齢者のいる家族。

意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
対象者の家族の捜索にかかる負担の軽減と、対象者を安全の保護する。

結果(どんな結果に結び付けるのか)
対象者及び家族が安心して地域で暮らすことができる。

活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア 利用者数	人
イ 捜索協力数	回
ウ	
対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア 利用者数	人
イ 認知症等で徘徊癖のある者	人
ウ	
成果指標(対象における意図された対象の程度)数字は記入しない	
名称	単位
ア 探すのが楽になったと答えた世帯	世帯
イ 安全に保護できた件数	件
ウ	
上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない	
名称	単位
ア 在宅が継続できている者	人
イ 家族が安心して外出できるようになったと答えた世帯	世帯
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	事業費	単位	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	年度
			(実績)	(実績)	(実績)	(見込)	(目標)	(目標)	(最終目標)
事業費	特定財源	千円	8	3	10	21			
	一般財源	千円	3	5	4	9			
	その他	千円	5	2	6	18			
	事業費計(A)	千円	16	10	20	48	0	0	0
	正規職員従事人数	人	1	1	1	1			
	人件費	千円	0	0	64	0	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)	千円	16	10	84	48	0	0	0	
活動指標	ア 人		1	1	2				
	イ 回		0	0	1				
	ウ								
対象指標	ア 人		1	1	2				
	イ 人								
	ウ								
成果指標	ア 世帯								
	イ 件		0	0	1				
	ウ								
上位成果指標	ア 人		0	1	2				
	イ 世帯								
	ウ								

(3) 事務事業の環境変化・町民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か?
徘徊の恐れがある家族の捜索の負担軽減と、対象者の安全の確保を目的に実施。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期と比べてどう変わったのか?
特に変化なし。

この事務事業に対して関係者(町民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられていますか?
利用者からは、もう少し使いやすい(持たせやすい)機器がないものかという要望と、紛失時の費用弁償(1万円程度)の不安がある。

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価					
目的妥当性評価	政策体系との結びつき この事務事業の目的は町の政策体系に結びつくか？意図することが上位施策に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びつかない [理由]	<input checked="" type="checkbox"/> 結びつく [理由]	3 改革・改善方向の部へ	介護家族の負担軽減につながっていることにより、地域社会への参加を促している。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を町が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 手が引ける [理由]	<input checked="" type="checkbox"/> 手が引けない [理由]	3 改革・改善方向の部へ	システム自体が民間事業者のシステムではあるが、安心して在宅生活が続けられることを考えると町が機器を用意し貸与することは妥当と考える。
	対象・意図の拡大又は縮小余地 対象と意図の拡大・縮小の余地はないか？(拡大による成果向上、限定・縮小による公的関与の適正化やコスト削減はできないか)	<input type="checkbox"/> 余地がある [理由]	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である [理由]	3 改革・改善方向の部へ	対象者や意図が限定・確定していることから拡大も縮小も必要ない。
	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 余地がある [原因]	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない [理由]	3 改革・改善方向の部へ	現行で、徘徊した人を探し出すシステムこれ以外にない。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無と有の場合の問題解決策	<input checked="" type="checkbox"/> 影響無	<input type="checkbox"/> 影響有	3 改革・改善方向の部へ 3 改革・改善方向の部へ	民間事業者のシステムのため、町が事業を廃止しても金銭的な問題以外は問題発生しない。
有効性評価	類似事業との統廃合余地 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合余地はないか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業)			
	全庁共通課題の貢献 全庁共通課題の解決に対してこの事業はどんな貢献をしましたか？	<input type="checkbox"/> 貢献した	<input type="checkbox"/> 貢献していない	3 改革・改善方向の部へ 3 改革・改善方向の部へ	
	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(工法の適正化など)事業費を削減した場合の影響の有無と、問題解決策	<input type="checkbox"/> 影響無	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有	3 改革・改善方向の部へ 3 改革・改善方向の部へ	利用者の金銭的負担増発生し利用手控えにつながる。問題解決としてはシステムを利用しなくても、地域で見守れる体制作りが考えられる。
効率性評価	人件費(業務所要時間)の削減余地 成果を下げずに所要時間を削減できないか？成果を下げずにより低賃金の担当者で遂行できないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 可能	<input checked="" type="checkbox"/> 不可能	3 改革・改善方向の部へ	業者と利用者の直接契約をしてもらい、個人が負担する分について町が補助する方法が考えられる。
	公平性評価 受益者負担の適正化余地 受益者負担と一般財源が公平・公正な配分になっているか？	<input type="checkbox"/> 適正化余地がある [理由]	<input checked="" type="checkbox"/> 適正化余地がない [理由]	3 改革・改善方向の部へ	機器は無償貸与ではあるが、月額利用料を利用者が負担しているので適性と考える。

3 改革・改善方向の部(PLAN)																		
(1)今後の事業の方向性(改革改善案) <input checked="" type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(3)改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>維持低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			×	維持低下		×	×
				コスト														
		削減	維持	増加														
成果	向上			×														
	維持低下		×	×														
(2)改革, 改善を実現する上で解決すべき課題は何ですか？それをどう解決していきますか？ 廃止するには既利用者についての取り扱いをどうするか、既利用者に了解を得て廃止を進める。ただし、システムは有効と考えるので自己負担での継続を勧める。また、他の徘徊の恐れのある方にも勧める。地域で見守れる体制作りには、徘徊や認知症という本人や家族にとってデリケートな部分を地域に知ってもらう必要があるため、温かく見守る地域住民の意識づくりも必要。																		